



SINKA

ULTIMATE TURNTABLE DUMPER

ターンテーブルダンパー
¥400,000 (RX-5000用・税別)

- 注文：受注生産
- 対応条件：
 - ①金属製ターンテーブルであること。
 - ②「SINKA」を取付けても支障のない駆動方式であること
 - ③「SINKA」の取り付け面が研削／研磨仕上げであり、テーパー状でないこと
 - ④「SINKA」の取り付け面の深さが12mm以上あること
 - ⑤「SINKA」の取り付け面の直径が200mm以上あること。
- MICRO「RX-5000」以外に装着できる可能性が高いプレーヤー：MICRO「SX-1500series」、MICRO「RX-2000、RY-2200」、MELCO「3350、3560」、PIONEER「P10、P3、P3a」、Technics「SP15」、LUXMAN「PD-171series」



同社の試験室にて、まずは「外周ディスクスタビライザー」をマイクロのアナログプレーヤー「RX-5000」の砲金ブラッターに装着
次に「SINKA」を試す。砲金ブラッターを取り外し、裏側の内周部に装着する



AMG-1000

純マグネシウム製、外周ディスクスタビライザー
¥120,000 (税別)

●サイズ：外径350mm、内径295mm、高さ10mm

画期的アナログアクセサリーの 新星ブランドが誕生

Text by
林正儀
Masanori Hayashi

レコード盤には、誰もまだ聴いたことのない未知の音がある。その音をひたすら求め、アナログ再生の限界に挑戦すべく誕生したのが、今回訪問する「アスカオーディオ」だ。デビュー作はターンテーブル関連アイテムの2製品で、純マグネシウム製外周ディスクスタビライザーとターンテーブルダンパー「SINKA」だ。いずれも独自技術が冴えわたる、世界初のハイエンドアクセサリーである。そこで高島平(都営三田線の「西台駅」)にある同社の試験ルームを訪ね、その効果を体験することにした。

振動対策を極めない限り 理想の音はやって来ない

「よくいらっしやいましたね!」アスカ・オーディオの代表である浅井和文さんはそんなスゴイものを生み出した方とは思えない気さくなお人柄だ。実は「SINKA」の方は、もう一人同席していただいた(有)真壁ブレードの代表である真壁嘉秀さんの開発品で、いずれもアスカ・オーディオから発売される。

まずはブランド誕生の経緯からおう。浅井さんは学生時代からのオーディオ好きで、名古屋から秋葉原に通うマニアであった。金田式アンプの自作やターンテーブルいじり、アルテックA、オンケンを愛用等々……オーディオ道を追求し続けた方である。現在はオリジナルのフィールド型スピーカーなど、こだわりはひと倍だ。そんな中、改めて気づ

いたのが「振動対策を極めない限り、理想の音はやって来ない」という確信である。そして試行錯誤の末、最強の振動吸収素材である純マグネシウムにたどりつく。浅井さんの本職は印刷業であったが、2年前にリタイア。それを期に一念発起して「アスカ・オーディオ」を立ち上げる。真壁ブレードの真壁さんとは、ビジネスフエアで意気投合したそうだ。

■外周ディスクスタビライザー 「AMG-1000」 ブラッターとレコードを カバーするように設置

まずは外周ディスクスタビライザー「AMG-1000」から解説していただいた。「振動しないもので、振動するものの振動をとってあげよう」という発想です。純マグネシウムは、音叉に採用されているステンレスの、80倍もの振動吸収能力を持つているそうです。しかも硬くて軽い。

製品は外周350mm、内径295mmで高さは10mm。ブラッターとレコードをカバーするような形で外側で覆うわけだが、わずか315gの軽量である。昔僕らが使ったトリオの真鍮製スタビライザーの1/4しかない。レコードにストレスをかけず、不要振動を吸収するには、これ以上ない素材と形状といえそうです。もう少し詳しく見ると、「レコード盤の音溝じゃないところにひっかかるようになっていきます」。なるほどうまい設計だ。サイズについては「JISの

レコード規格+0.5mm」で管理しているそうで、「世界のほとんどの盤に対応しています。何百枚試して2枚きついのがあったくらいです……。それならば安心だ。

■ターンテーブルダンパー 「SINKA」 超レアなマテリアルと 最先端技術により完成

一方のターンテーブルダンパーの「SINKA」はブラッターの内側にはめこんで、鳴きや振動を抑えるアイテムだ。装着してしまうと外からは全く見えない。

これが不思議な物体で、いきなり「ジェットエンジンの心臓部に使われている特殊合金です」といわれてもピンとこない。もともとはハニカムで、5/100mmの箔材を90層くらい積層するそうだ。かざすと透けて見える。

実は真壁ブレードは国内でただ1社、ジェットエンジンの部品(ハニカムシール材)メーカーとして知る人ぞ知る。素材は「ハステロイX」米ヘインズ社の登録商標」という、耐熱性の高いニッケル合金だ。国内では入手困難な超レアなマテリアル。先端の加工技術とあいまって、画期的なアクセサリーが完成した。

部屋の空気を総入れ替えしたかのような 新鮮な音楽の感動に浸れるアイテム

威力はとてつもない。ほぼ全ての周波数帯域において、驚異的な振動減衰能力を発揮(特性データ参照)。今のところ同社の試験室に設置されたマイクロのアナログプレーヤー「RX-5000」の専用設計であるが、金属製ターンテーブルであれば、手持ちのレコードプレーヤーにあわせて特注に応じるそうだ。

●「AMG-1000」の効果 楽器の音がクリアに浮かび 解像度が圧倒的に向上する

さて2製品の試験である。「AMG-1000」を(A)、「SINKA」を(B)としよう。(B)の装着はコツが必要で、「RX-5000」の砲金のブラッター(釣鐘)を逆さにして馴染ませながら押し込むもの。装着した後にはブラッターをハンマーで叩くとカーンからコツに変化した。

試験の順序は、まず(A)のあるなし。次に(B)だけのあるなしを聴いて、(A+B)の相乗効果も確かめてみた。

ビル・エヴァンスの『モントルー・ジャズ・フェスティバル』などかけたが、盤に(A)を被せるとS/Nが上がり、煩さが消えて、本来の楽器の音がクリアに浮かび上がる。どしどし音量が安定して彫りも深くなり、帯域レスポンスと解像力が圧倒的に向上。拍手の質感や空気感そのものが

違い、シンバルの倍音がツーンと伸び、ベースの太いスライド音もリアリティが痛快だ。重心が下がる。キレよく最低音の沈みも実にゴキゲン。

●「SINKA」の効果 一切の付帯音が消え去り 音と演奏が、進化化する

(B)だけの効果は、鮮度の高さとスピード感に集約される。ブラッターがダンプされ、S/Nとダイナミックレンジも明らかに向上。音と演奏そのものが、進化したようである。付帯音が消え去ってピアノの輝きは絶品だ。いま録音したように見通しよく、ビル・エヴァンスの鮮やかなアドリブプレイとオーディエンス熱気に包まれた。拍手にも厚みがあり、目の前で演奏するようなダイレクト感に圧倒されっぱなしである。

(A+B)は効果倍増どころか、3〜4倍増という、生々しい雰囲気だ。クラシックの盤も聴き比べたのだが、弱音とフォルテシモの限界がさらに広がった。これはもう部屋の空気を総入れ替えしたかのごとくサウンド全体がフレッシュで、新鮮な音楽の感動に浸りきれたのだ。できれば、両方の使用をお勧めする。レコードに刻まれた音をここまで出し切れる2アイテムに拍手。大注目の新星ブランドである。